



Japan. Meetings & Events
New ideas start here

行政事業レビュー公開プロセス 説明資料

【事業名】国際会議等(MICE)の誘致・開催の促進

MICEの誘致・開催の促進(事業概要)

「2030年には、アジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位を築く」との目標達成のため、都市・地域のMICE誘致力を高める。

グローバルレベルのMICE都市の育成

アジアNo.1の国際会議開催国になるためには、

- ①大型国際会議の誘致によるブランド力向上
 - ②中規模国際会議の確実・継続的な誘致
- を実現できるグローバルレベルのMICE都市の育成が必要。

※①平成25～26年度

グローバルMICE都市（東京、横浜、京都、神戸、福岡、大阪、名古屋）の選定・支援

※②平成27～28年度

グローバルMICE強化都市（札幌市、仙台市、千葉県千葉市、広島市、北九州市）の選定・支援

グローバルMICE強化都市への重点的支援

一定水準以上の誘致能力を有する都市を「グローバルMICE強化都市」として追加選定し、

- ・市場/競合都市の調査分析
- ・海外アドバイザー派遣
- ・ステークホルダーの連携促進 等の支援を実施

アドバイザー派遣

○高度な専門知識と国際ネットワークを有する外国人専門家を都市に派遣し、都市の現状やポテンシャルを元に、マーケティング戦略の策定誘致活動についてコンサルティング・活動支援を実施。



ステークホルダーの連携促進

○自治体、コンベンションビューローホテル、地元大学、産業界等の地元ステークホルダー連携促進のため、セミナー等を実施。



事業の効果

- ・アドバイザーによる都市の現状誘致能力を①開催地能力(ハード面)②コンベンションビューロー誘致能力(ソフト面)の二面より査定
- ・上記査定結果を元に、海外主要競合都市の誘致能力と比較した上で、各都市ごとにマーケティング戦略プランの策定
- ・誘致に関わる専門的スキルの向上(ビッドペーパー(誘致提案書)作成等)
- ・セミナーを通じて地元MICEステークホルダーへ連携強化促進(協議会設置の促進)

地域の特性を活かしたMICEの推進

- ✓インセンティブ旅行、イベント・展示会等の多様なMICEを誘致・開催することで、地域経済の活性化が実現。
- ✓地域産業、観光資源、ユニークベニュー等の地域の特性や魅力を活かしたMICEを推進するため、国内大学教員への意識調査、ベストプラクティス共有等によりモデル構築を図る。

- ・地域の多様性を活かしたMICE推進のあり方や大学のカンファレンスサービス機能、及び大学・自治体等の連携等を調査
- ・地場産業・ユニークベニュー等、地域ならではの資源の発掘・活用例を紹介した事例集の作成
- ・全国7会場(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)で調査報告・勉強会を開催



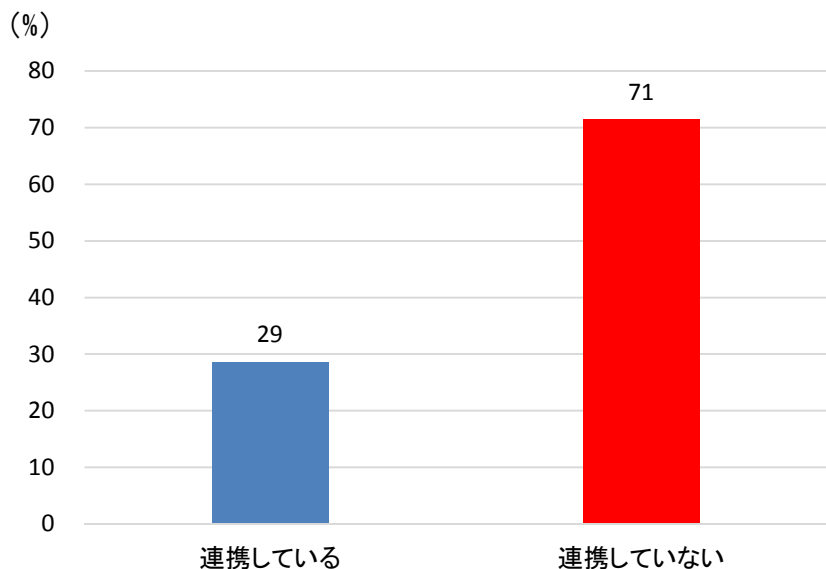
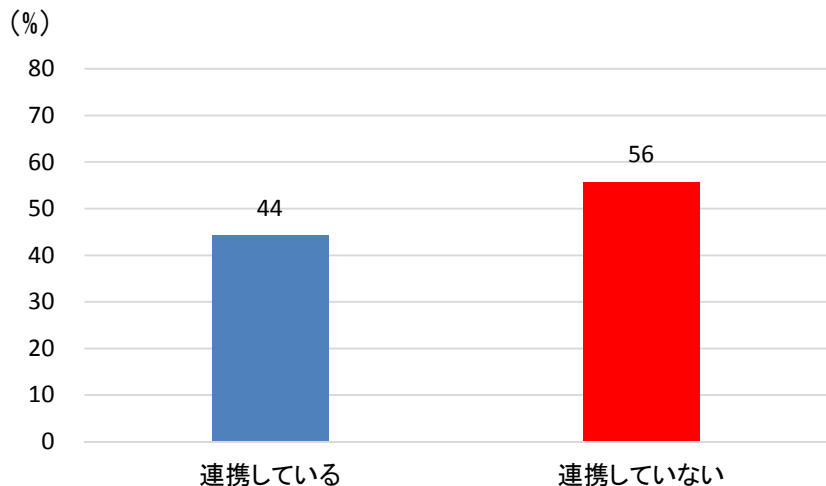
勉強会(東京会場)の様子

MICEを通じた地域活性化

課題①「MICE関係者との連携」(官民連携)

○MICEを誘致・開催するために、民間企業を巻き込み、官民一体となって誘致を行うことが有効と考えられるが、現状では民間企業に対する巻き込みが不十分

自治体・コンベンションビューローの連携状況



「明日の日本を支える観光ビジョン」
 (平成28年3月30日、『明日の日本を支える観光ビジョン構想会議』
 (議長:内閣総理大臣))

【MICE誘致の促進】
 (現状・課題)「国際会議・国際展示会等(MICE)は、開催地を中心に大きな経済波及効果を生み出すものの、認知度が低く、関係者のサポートが得られにくい。」

(今後の対応)「政府レベルのMICE支援体制を構築するため、関係府省連絡会議を年内に新設し、将来的に、官民連携横断組織によるオールジャパン体制での支援を実施。」

(参考)韓国の官民連携の事例

2011年より、韓国では、ソウルのMICE関連企業、コンベンションセンター、ホテル、プロダクション、航空会社、国際会議企画会社、旅行会社などの72社と「SEOUL MICE Alliance」(官民共同協力協定)を結成し、大々的な海外マーケティングを実施

日本でもMICEの誘致・開催を促進させるために、官民連携してオールジャパン体制で支援する場合、官民連携横断組織はどのようなサポートを行うことが有効と考えられるか？

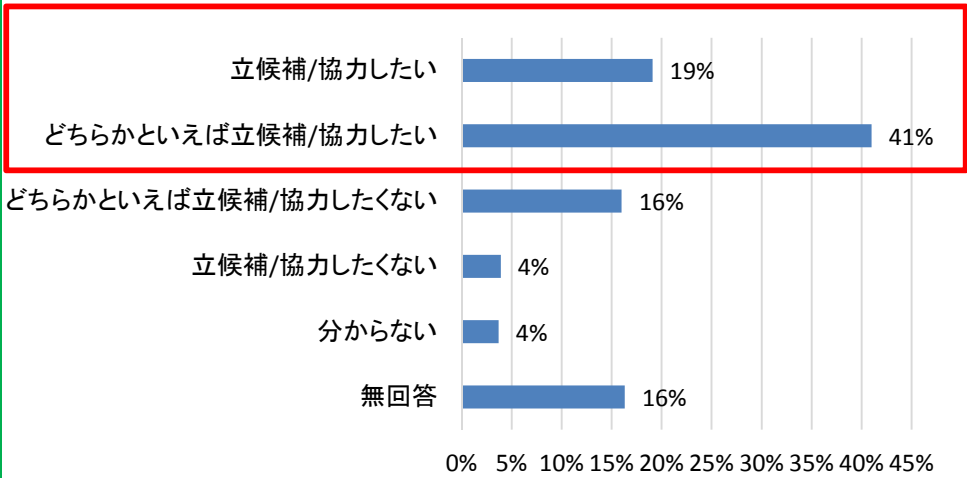
課題①「MICE関係者との連携」(大学等研究機関との連携)

○国内大学の関係者がリソース不足(時間、資金)のため、国際会議を積極的に誘致できる環境になっていない

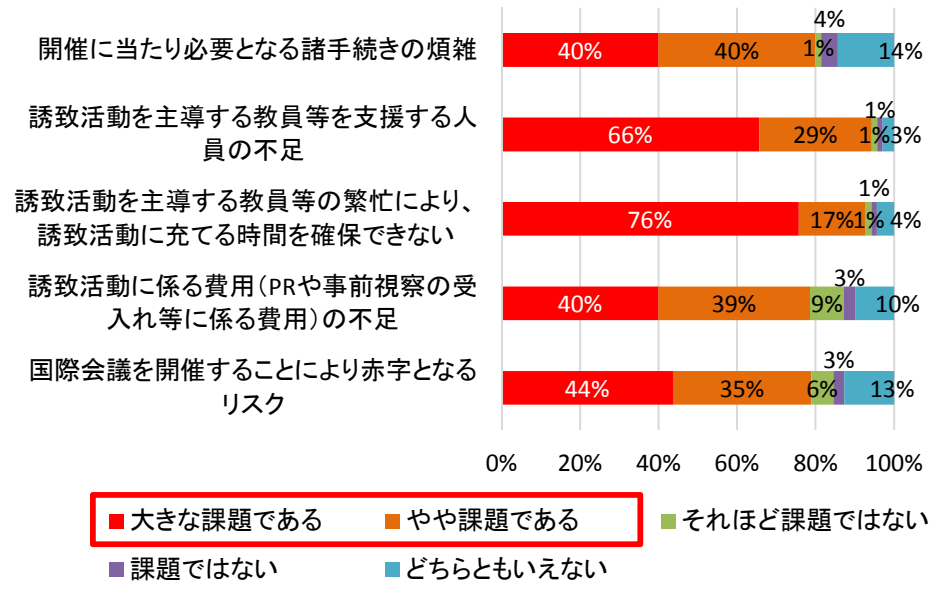
大学の教員は、学会を誘致したいと思うものの、“ヒト”、“カネ”のリソース不足で誘致に課題を感じているケースが多い

国内の大学がカンファレンスサービスを実施していないケースが多い

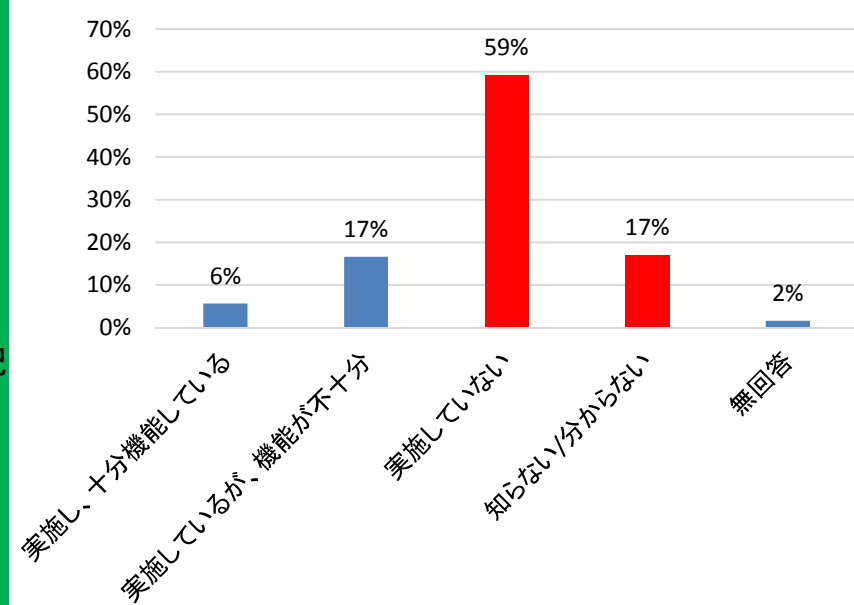
誘致活動への立候補/協力の意志



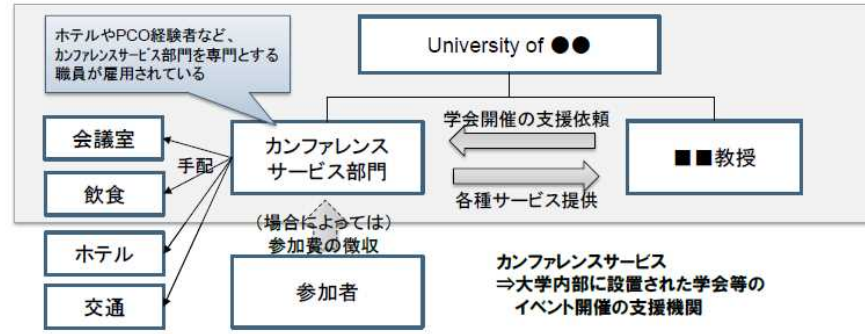
国際会議誘致における課題



カンファレンスサービスの実施状況



注: 海外の大学の中には、大学内部に学会・会議の誘致開催を支援する各種サービスを提供する組織が設けられており、会場の手配や会議のプラン検討、会場設営、飲食の手配等の開催支援サービスを提供している



出典: 地域の特性を活かしたMICEのあり方に関する報告書

課題①「MICE関係者との連携」(地域内連携)

- ユニークベニューを成功させるためには利用時間、ベニューへの持ち込み条件などの問題を解決する必要があるが、日本ではユニークベニューの活用が欧米に比べ進んでおらず、施設所有者等にも開催するノウハウが蓄積されていない
- また、ユニークベニューの活用促進に向け、MICEを開催することの意義を施設所有者等に訴えかけていくことが必要

ユニークベニュー開催の課題と課題に対する解決策

■ 博物館・美術館・水族館

課題	場所	解決策
展示品保護への懸念	地底の森ミュージアム 横浜美術館グランドギャラリー 名古屋港水族館	○開放条件の決定 実施スペースを使い分け
	横浜美術館グランドギャラリー	火気の使用制限 生花の持込制限 色の付くアルコール(赤ワイン等)の制限
時間外利用が困難	名古屋港水族館	○施設所有者に開催意義を説明

■ 歴史的建造物

課題	場所	解決策
施設の受入れ環境	山本能楽堂	○受入れ環境の整備 文化庁の補助金活用
施設保護への懸念	高松城跡玉藻公園「披雲閣」	○開放条件の決定 アルコール提供の制限
時間外利用が困難	高松城跡玉藻公園「披雲閣」	○市(施設所有者)が主催

■ 神社仏閣

課題	場所	解決策
時間外利用が困難	厳島神社	○施設所有者に開催意義を説明

■ 屋外空間(道路・市場・公園)

課題	場所	解決策
道路使用許可の取得が困難	丸の内仲通り 川端商店街	○警察署との協議を重ねる 地元行政、エリアマネジメント団体が 参画した実行委員会
道路占用許可の取得が困難	川端商店街	○所管区役所に開催意義を説明
天候条件	小倉城天守閣前広場	○テントの設置
	ピアBandai	○代替施設の確保

■ 地域独自の施設(競馬場・鍾乳洞)

課題	場所	解決策
目的外利用が困難	JRA札幌競馬場	○施設所有者に開催意義を説明
施設保護への懸念	ガンガーラの森	○実施スペースを使い分け
飲食提供への懸念		○営業許可を取得したケータリングを使用

- ・ ユニークベニュー開催には多方面の協力及び連携が不可欠
- ・ ベニュー利用のため所有者への経済波及効果等の訴求が必要か

「ICIAE2015」Extra Party 小倉城天守閣前広場<福岡県・北九州市>

ポストコンベンションとして
小倉城での花見パーティを開催

【実施体制】
北九州市・西日本産業貿易コンベンション協会、九州運輸局、観光庁や地元の協力のもと、公園の占有許可や雨天・防寒対策など課題を解決した。桜満開の季節に“お城”という日本らしい空間での小倉祇園太鼓など地元ならではの演出や料理で世界各国からの国際会議出席者をおもてなしするレセプションが実現した。



【課題と解決策】
火気使用禁止の場所でIH調理器を使用した。

IPEC Hiroshima 2014 宮島 International Night 厳島神社<広島県・廿日市市>

厳島神社での正式参拝や日本文化体験演出

【実施体制】
本部の実行委員長、各店舗の幹事・運営事務局・実行委員、各店舗補助の学生アルバイト・ボランティア等、広島観光コンベンションビューロー・中国運輸局・観光庁のバックアップにより、主催者と連携ができた。



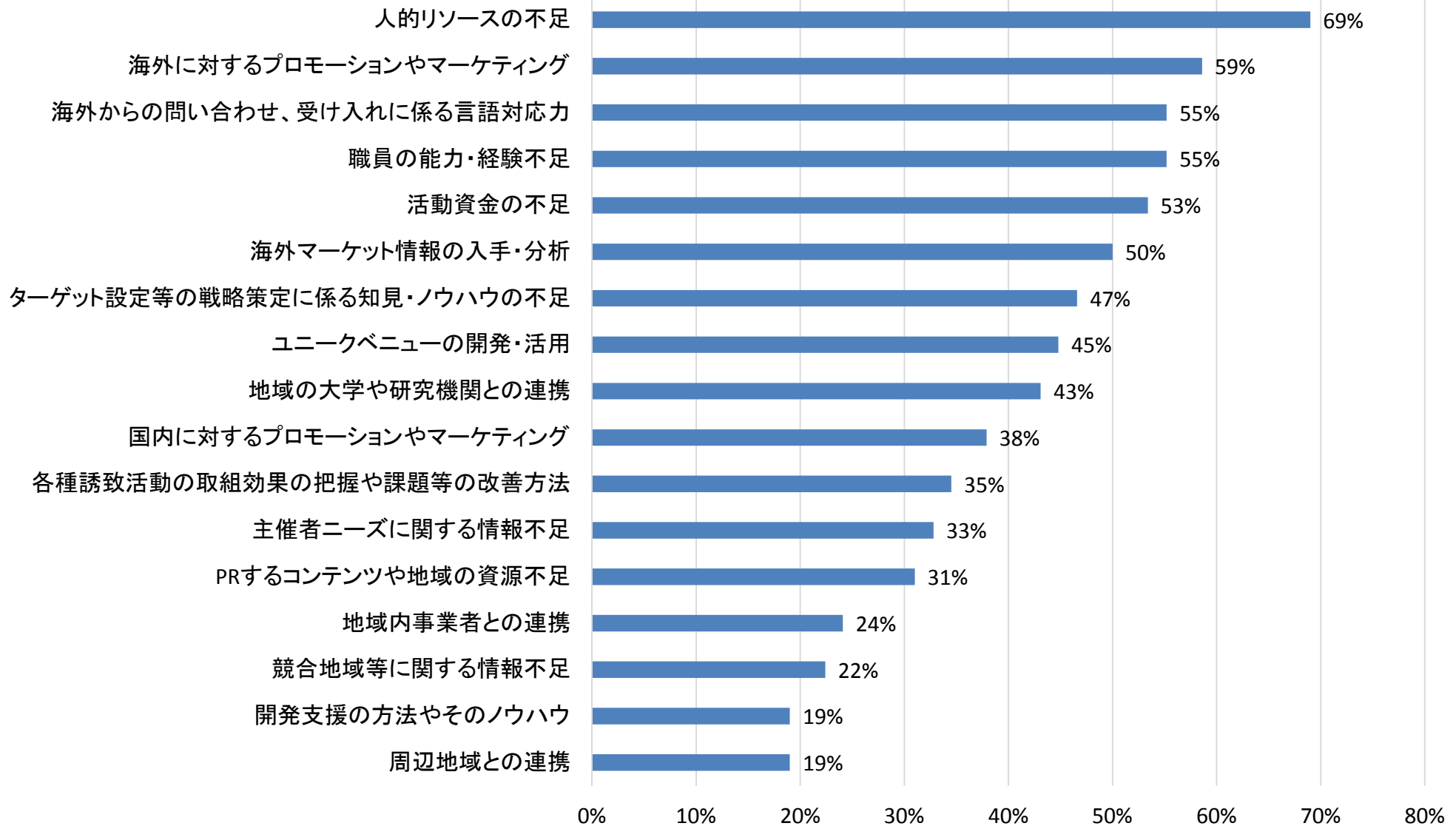
【課題と解決策】
時間外利用について厳島神社に趣旨を説明することで理解を得られた。

(出典:「ユニークベニューベストプラクティス集」)

自治体やコンベンションビューローにおけるMICE誘致・開催に対する課題

自治体やコンベンションビューローにおいて、MICEを誘致・開催する場合の課題として、

- 人的リソース、職員能力・経験不足、活動資金といった組織としてのリソース不足を課題と感じているケースが多い
- ユニークベニューの開発や地域の大学や研究機関との連携を指摘する声も多い
- また、地域内事業者との連携や周辺地域との連携、開発支援のノウハウを指摘する声もある



課題②成果目標及び活動指標

○アジア都市別国際会議開催件数では東京8位(世界順位28位)、京都13位(世界順位57位)、
 その他都市は20位以下となっており各都市の底上げが必要

成果目標 ⇒ 『2030年には、アジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位を築く』(日本再興戦略)

成果指標 ⇒ 国際会議件数のアジアの順位(1位:2012年から2015年)

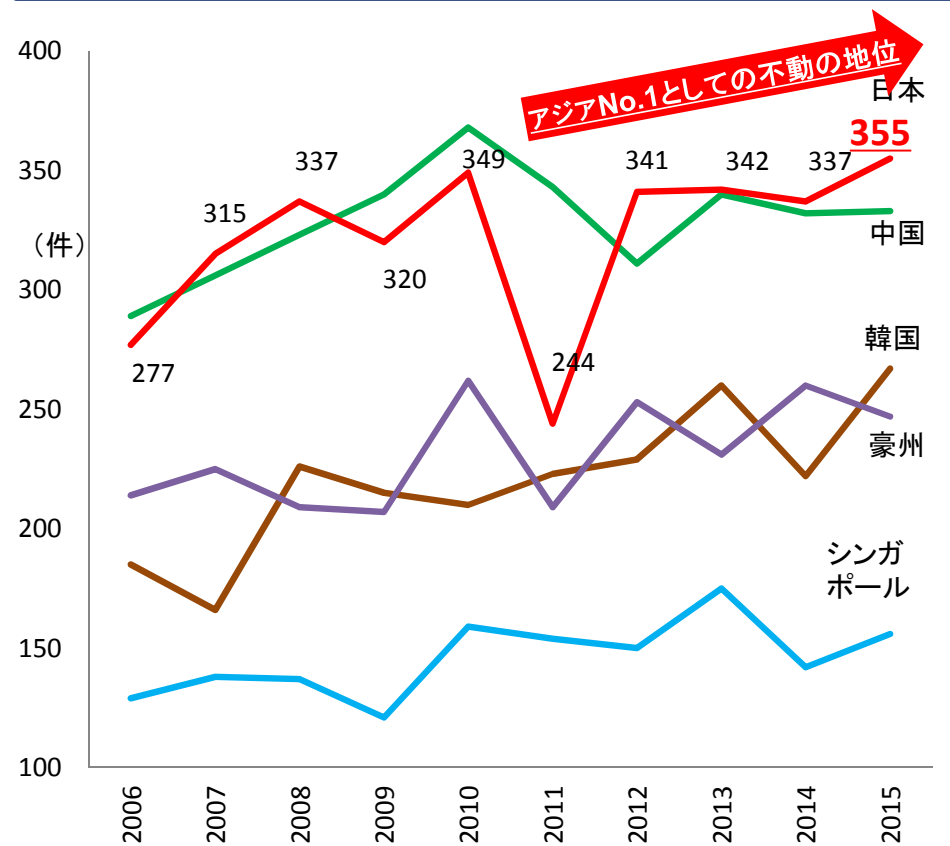
活動指標 ⇒ 国際会議開催件数(※ICCA統計)

アジア大洋州・中東地域の都市別国際会議 開催件数ランキング(ICCA 2015)

2015年 アジア大洋州・中東地域順位	2015年 世界順位	都市	2015年 開催件数
1	7	シンガポール	156
2	13	ソウル	117
3	15	香港	112
4	16	バンコク	103
5	19	北京	95
6	22	台北	90
7	25	シドニー	86
8	28	東京	80
9	32	クアラルンプール	73
10	46	ドバイ	56
11	47	上海	55
12	49	メルボルン	54
13	57	京都	45
14	64	マニラ	41
14	64	ニューデリー	41
16	68	パリ	40
20	85	福岡	30
25	115	大阪	23
26	117	横浜	22
30	139	札幌	18
39	182	名古屋	14
42	191	神戸	13
42	191	沖縄	13
57	254	仙台	9
57	254	筑波	9

出所)※ICCA(国際会議協会)統計より作成

アジア・大洋州における主要国の国際会議開催件数推移(1995~2015)



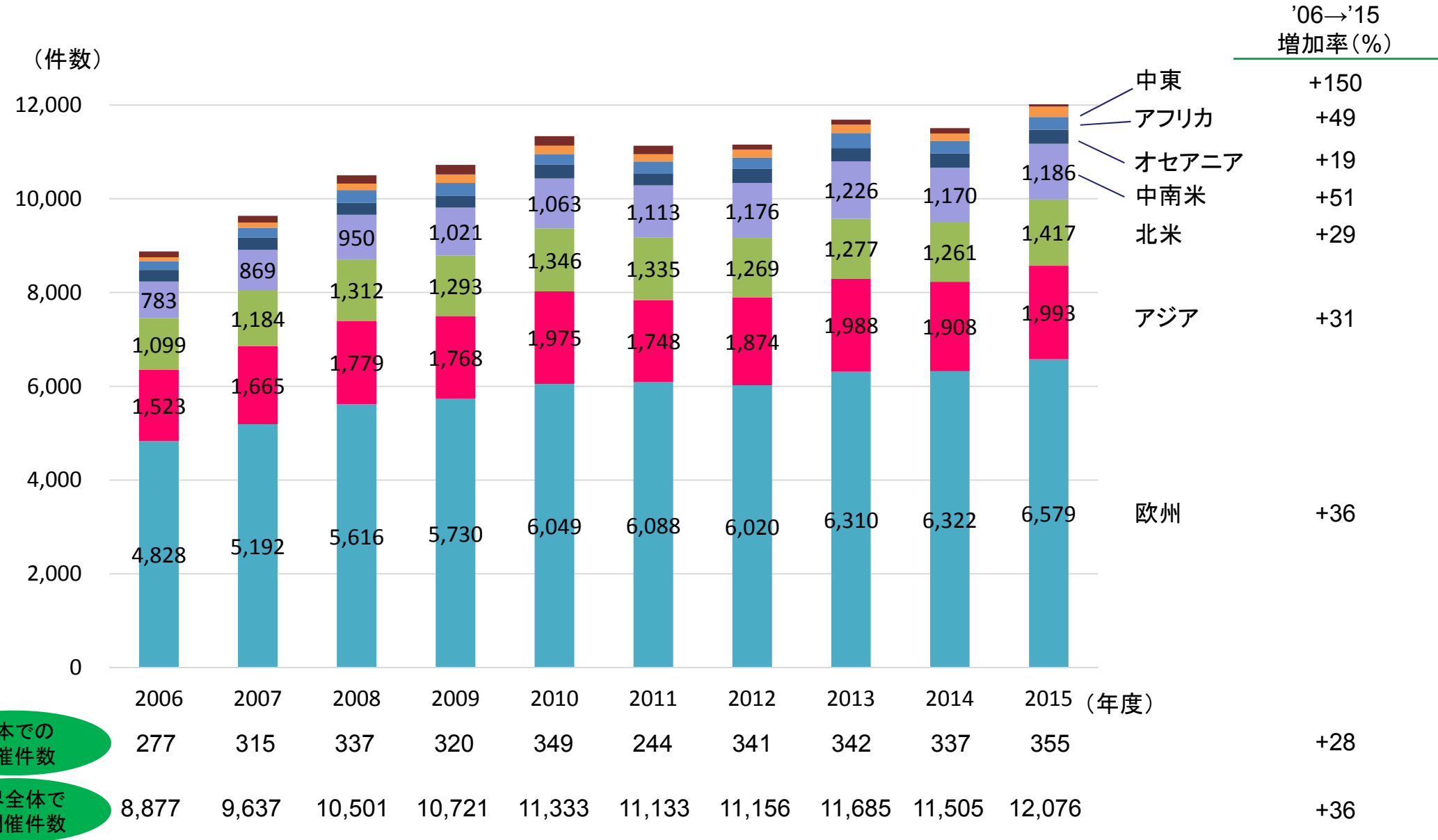
出所)※ICCA(国際会議協会)統計より観光庁作成

※ICCA(国際会議協会)統計の国際会議選定基準
 (国際会議協会: International Congress and Convention Association)
 国際機関・国際団体(各国支部を含む)、または国家機関・国内団体(各々の定義が明確ではないため、民間企業以外は全て)が主催する会議で、以下の条件を満たしていること。
 1. 参加者総数が50名以上
 2. 定期的に開催される(1回だけ開催されたものは除外される)
 3. 3か国以上での会議持ち回りがある(2か国間会議は除外される)

参考資料

世界の国際会議開催件数の推移(2006~2015)

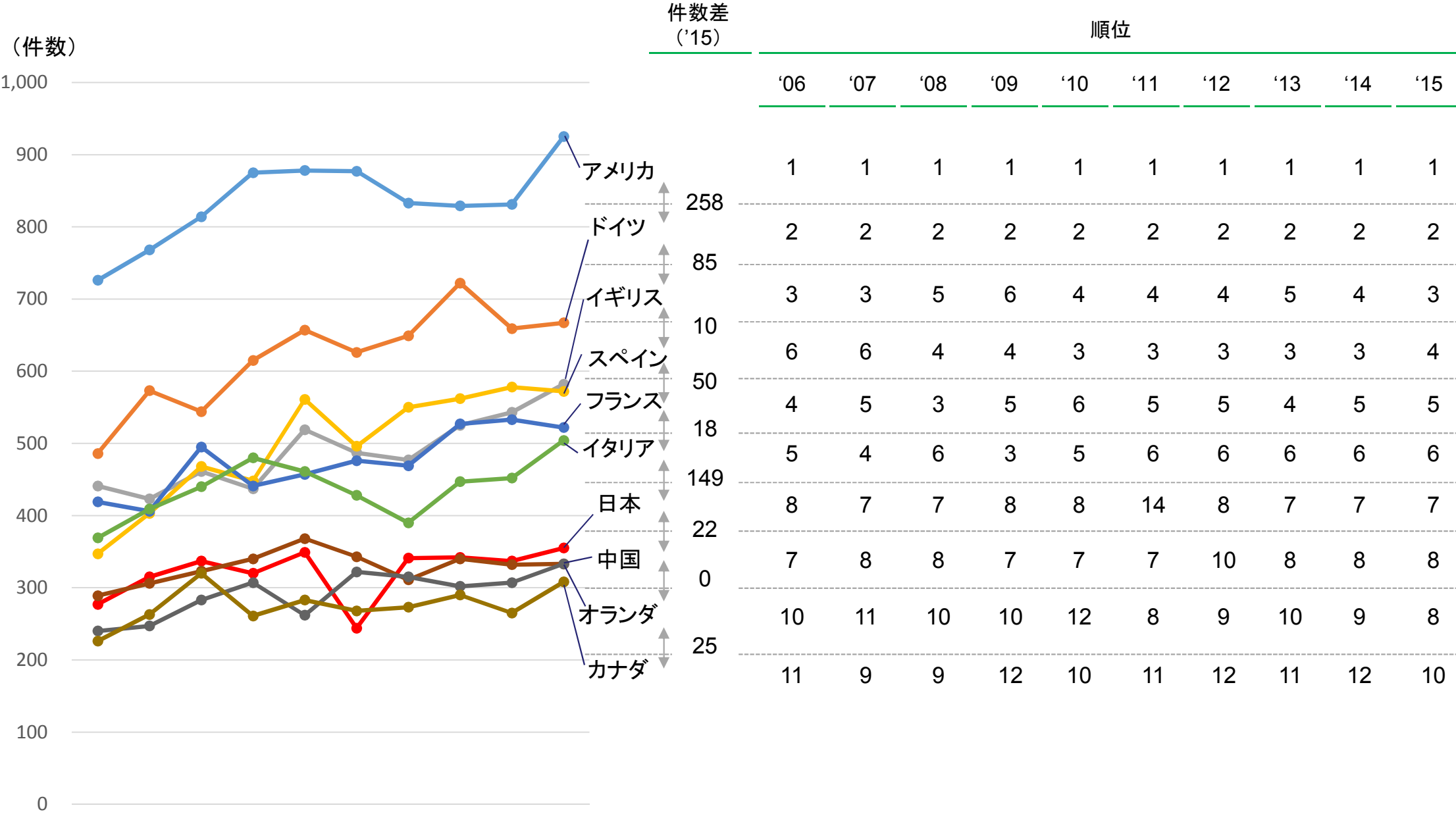
○直近10年で、世界の国際会議は+36%増加したが、日本の国際会議は+28%の増加にとどまっている
 ○国際会議が最も開催されている地域は欧州で、最も開催の伸びが大きい地域は中東となっている



出典: ICCA (A Modern History of International Association Meetings 1963-2012)、ICCA Statistics Report (2013, 2014, 2015)
 注: 開催件数が少なく、レポートで「others」とまとめられた会議については地域分類が不可能なため、地域分類を行っていない

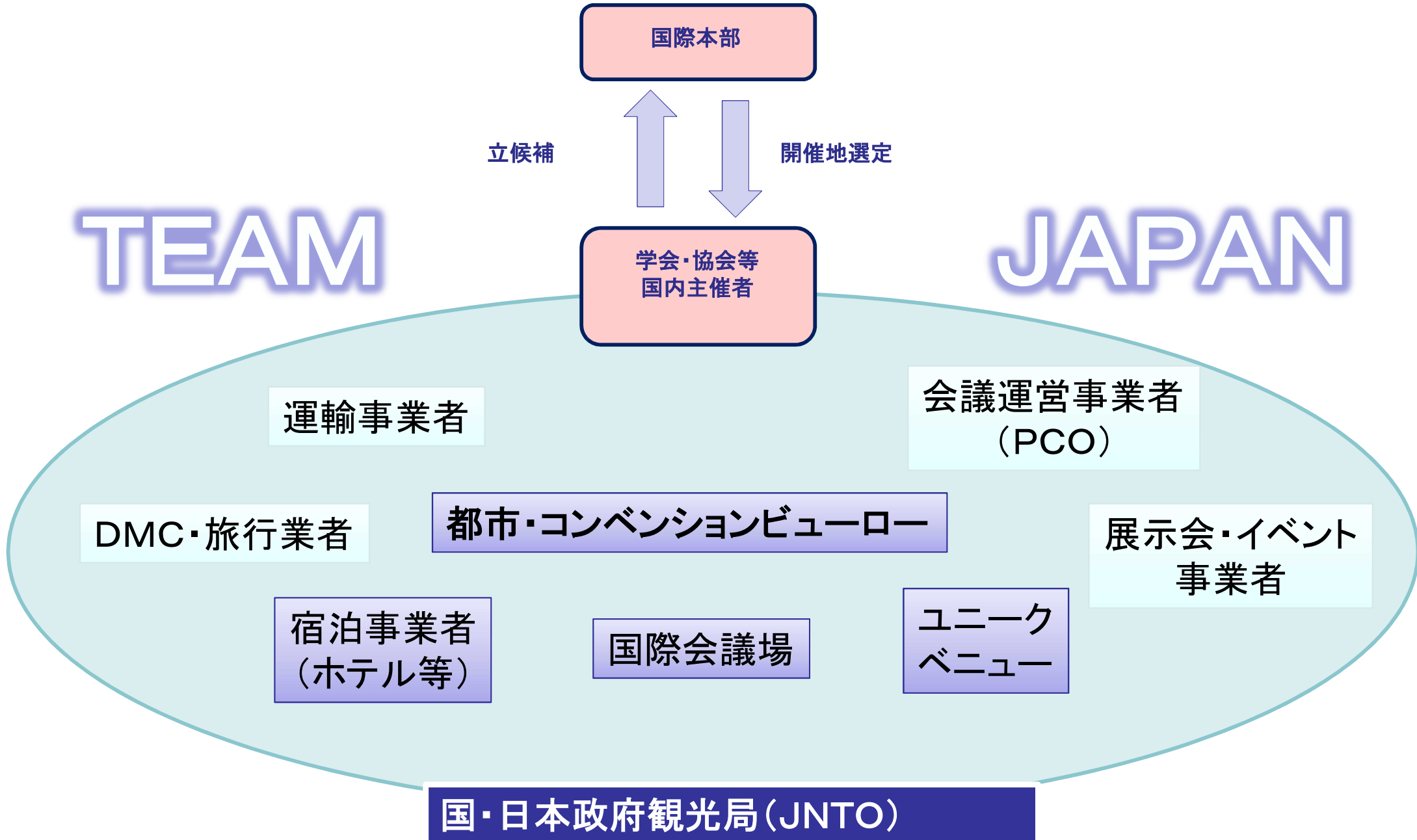
国際会議開催件数上位10カ国(2015年)のこれまでの件数推移と順位推移

○国際会議の開催件数が最も大きい国はアメリカで、上位は欧州が占めている
○日本は、直近7位で維持してきており、6位のイタリアとは149件の差がある



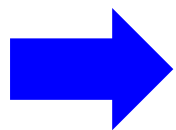
2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015
出典: ICCA (A Modern History of International Association Meetings 1963-2012)、ICCA Statistics Report(2013,2014,2015)

国際会議の誘致に関わるプレイヤーの相関図



MICEと一般観光と国際会議の違い

	一般観光	国際会議
主体(主催)	個人	学協会等(主に法人)
都市滞在期間	1都市1~2泊	会議開催中は1都市滞在
旅程	主要観光地を周遊	会議開催地から プレ・ポストツアーの実施
支出傾向	宿泊・交通費・飲食 費・おみやげ等 支出額: 151,174円/人 <small>資料: 訪日外国人消費動向調査(2014年)</small>	左記 + <u>主催者による会議場・ 宴会場・通訳等々の利用有</u> 支出額: 307,000円(US \$ 2,540)/人 <small>資料: ICCA統計(2013)</small>
景気の影響	景気の影響を 受けやすい	数年前に開催が決定されるため、 開催自体は景気等の影響に左右 されにくい



主催者、参加者等の消費支出は、
開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出す。

MICE誘致のフロー

情報
収集

日本側
主催者
による
立候補

誘致活
動

開催決
定・
開催準備

開催

効果把
握・
次回誘
致

◆海外MICE
見本市に出展



◆国際団体
データベース
の検索

①日本側ホス
トが日本開催
の意思表示

②国内候補
都市を選定

③国際本部へ
立候補書類
提出
※招請状添付

◆開催地決定
権者等へ日本
開催の必要性
を説明

◆招請・視察
受入



◆総会・理事
会等で開催地
アピールのプ
レゼン実施

◆投票等によ
り開催地決定

日本に
決定



①事務局の組織
化
②会場調達・プロ
グラム作成等
③参加者募集
④寄附金募集
等

◆ウェルカム
スピーチ



◆開催都市等
による各種開
催支援プログ
ラムの利用



◆開催による
経済効果
◆参加者交流
による地域活
性化
◆学術研究・
産業連携の進
展・波及
◆訪日再訪意
欲促進

↓
★誘致活動・
開催効果の評
価
★次の誘致活
動の計画策定

日本再興戦略

(平成25年6月14日閣議決定; 改訂:平成26年6月24日・平成27年6月30日 同左 決定)

2030年にアジアNo.1の国際会議開催国としての不動の地位を築く

URL: <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/>

観光立国実現のためのアクション・プログラム

(平成25年6月11日観光立国推進閣僚会議決定; 改訂:平成26年6月17日・平成27年6月5日 同左 決定)

MICEを重点分野の1つとし、具体的な施策を列挙

URL: <http://www.mlit.go.jp/common/001092004.pdf>

MICE国際競争力強化委員会最終とりまとめ

(平成25年8月2日とりまとめ)

MICE誘致の国際競争力強化が必要
アジアNo.1の国際会議開催国を目指す

URL: <http://www.mlit.go.jp/common/001006763.pdf>

◆明日の日本を支える観光ビジョン

(明日の日本を支える観光ビジョン構想会議 平成28年3月30日)

MICE誘致の促進

- MICEの誘致促進に向け、政府レベルで支援する体制を構築するため、関係府省連絡会議を年内に新設し、以下の取組を実施。
 - レセプションでの国立施設の使用許可
 - ポスト・コンベンション/展示会向け施設の拡充
 - グローバル企業のビジネス活動を支える会議施設等の整備への支援
- 将来的に、官民連携の横断組織を構築し、オールジャパン体制での支援を実施